読むと翔鸞のまちが♥好き♥になる

翔鸞学区ニュース

（しょうらんがっく）

上京区社協が発行する、コロナ禍における
学区内の動きをお伝えするニュースです。

No.1

Sept.2020

コロナ禍の中でも、安心して暮らし続けられるまちづくりが、翔鸞学区では行われています。

翔鸞学区では今日も、３密や衛生面に気を配りながらまちづくり活動が行われています。
今回は、６月１３日に翔鸞住民福祉協議会が行った配食サービスの様子を紹介します。

1
搬入

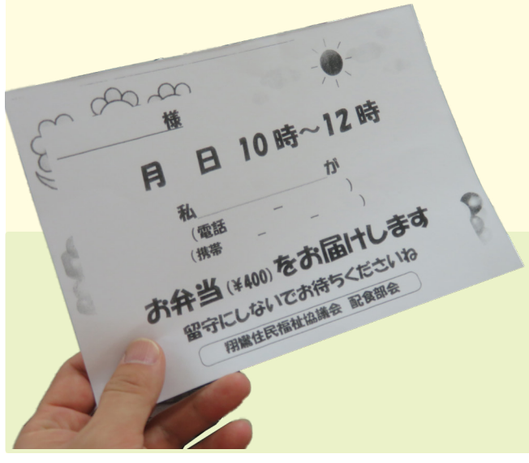
2
仕分け

3
出発

4
お届け

◎「みなさんお待ちかね。だから、雨が降っても行います」

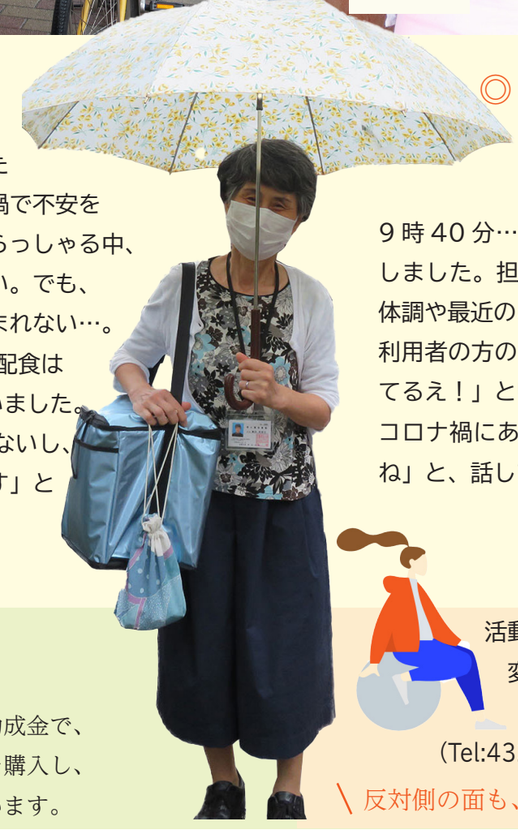
９時２０分…集合場所の翔鸞会館に行くと、鎌田会長と仕出業者の方がお弁当の搬入を始めていました。朝から土砂降りだった雨は少し小降りになり、「このまま、天気がもってほしいねぇ」と、鎌田会長。この日配るお弁当は約１００食。



「みなさんお待ちかね。だから、雨が降っても行います」と、続々来られた担当者の方々（民生児童委員・老人福祉員）が話してくださいました。担当者別に弁当を仕分けし、保冷バッグに詰めていきました。担当者の方々は、特別定額給付金に関する質問が出た際の対応方法や、熱中症予防の声掛けの仕方など、お互いに確認しあいました。もちろん、手指の消毒も念入りに行いました。

◎「４・５月は、どうしたらいいか悩みました。でも、私たちはこういう時だから、お互いに顔をあわせることが必要です」

これは、担い手のみなさんに、コロナ禍でのお困りごとを尋ねた時の答えです。コロナ禍で不安を抱える方がたくさんいらっしゃる中、本当は活動を再開したい。でも、感染予防を考えると集まれない…。鎌田会長は、「そこで、配食は４・５月も休まずに行いました。訪問すれば３密にならないし、見守り活動にもなります」と話してくださいました。



◎「これからは、コロナ禍にあったまちづくりを、みんなで考えたいね」

９時４０分…担当者の方々が、お弁当を配りに出発しました。担当者の方々は訪問先で、利用者の方の体調や最近のご様子をさりげなく確認されました。利用者の方の、「いきいきサロン、再開を楽しみにしてるえ！」という声に、担当者の方は「これからは、コロナ禍にあったまちづくりを、みんなで考えたいね」と、話してくださいました。

配食前にお渡しするお手紙。
そこには、担当者の方々の
「あなたのことを大切に思っているよ」
というメッセージがこめられていました。

上京区社協からの助成金で、
新しい保冷バッグを購入し、
配食時に役立てています。

活動の内容は、コロナ禍の状況により
変更となる可能性があります。
最新の活動は上京区社協
（Tel:432-9535）までお尋ねください。

＼反対側の面も、ぜひご覧ください！／